

## 令和2年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	義務教育学校の中核を構成するリーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラムの開発
事業実施代表者名	附属釧路小学校長 内 山 隆 附属釧路中学校長 早 勢 裕 明
実施附属学校名	附属釧路小学校・附属釧路中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>過疎化が進む地域では、『地域の担い手』育成を念頭においたリーダーシップ教育及び、リーダーのリーダーシップを支えるフォロワーシップ教育が重要になる。本研究は、次代の地域の担い手として、他者を理解し、思いやり、インクルーシブな感覚と自己の責任を持ち合わせたリーダーシップ・フォロワーシップを育む汎用性のある学習プログラム開発に取り組むものである。</p> <p>リーダーシップ教育は、これまで学校内において、特別活動等を中心に経験的に指導されてきたが、教育課程の中で体系的・系統的に意図的に研究・指導されることが少なかった。また道東地域においては、初任段階教諭の割合が多い小規模校や、小規模校であるがゆえに免許外指導が不可避の中学校が多く存在することから汎用性のあるプログラム（モデル）が求められている。</p> <p>そこで、協働的な学習における、拡大掲示物（絵図）、書画カメラによるリアルタイムでの即時的な映像、iPadを活用して収集したり作成したりした情報等の教材開発や効果的な活用方法について研究することで、リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力が育まれるとともに、公立学校に対して、「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」について情報提供ができると考えた。</p> <p>具体的には、これらの研究を推進するために小学校では、本経費を書画カメラ及びプロジェクター購入と拡大プリンターによる印刷経費として支出した。そして、小学校では、拡大掲示物（絵図）は、生活科はもちろん、各教科等において、学習課題の提示や教科書等の資料の拡大、書写や家庭科、図画工作科での活動の細部の提示、児童が自分の考えを発表する際のノートの拡大、作品の提示等情報共有の場面で活用した。</p> <p>中学校では、以前、委託を受けた情報活用能力育成事業を深化発展させ、全ての教科等において教育活動におけるICT（特にiPad）の活用に取り組んできた。様々なICT機器活用のセミナーを企画、実施するなど、積極的にICTを活用した授業開発、授業研究を推進した。</p>

	<p>その教育研究の土台があり、コロナ禍による全国一斉の学校閉鎖において、いち早くオンライン授業を構築し、双方向による主体的で対話的な深い学びにつながる質の高い授業実践し、広く教育局、市町村教育委員会を始め多くの公立学校も活用できるようにシステムや授業の構築に関する教育研究を推進してきた。</p>
<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>小学校においては、拡大掲示物(絵図)は、共有した情報に対する一人一人の考え等を書き込んだり貼り付けたりする活動を通して、対話が生まれ、深い学びを実現することができた。また、書画カメラについては、ロールスクリーンや大型テレビに投影された映像を目にするだけでなく、加筆したり修正したり、比較したりすることを通して、イメージや考えを共有したり深めたりすることにつながっていた。また、それらを活用した授業実践をセミナー等で公立学校等に公開してきた。</p> <p>これらの結果は、学校評価においても、「主体的・対話的で深い学びを実現する授づくり」に係る質問に対し、保護者 79.0 ポイント、教職員 88.9 ポイントという結果としても表れた。児童を対象とした学校環境適応感尺度「アセス」における、学習適応に関する項目は、55.7 ポイントであった。また、公立学校からも特に学習展開や教材・教具の工夫について、自校でも活用したとの複数の報告をいただいた。ただ、プログラム開発の一層の充実を図るためには、校内の ICT 環境整備 (iPad の 1 人 1 台配置) を進める必要がある。</p> <p>中学校では、これまでの ICT 機器を活用した教育実践やコロナ禍でのオンライン授業の取り組みを教育研究の成果としてまとめ「主体的・対話的で深い学びを指向するオンライン授業」と題した冊子を作成し、道内全中学校と教育関係機関に提供した。</p> <p>また、昨年度同様、スクールサーベイにおいては「共同体的学習意識」において数値が昨年度より向上したことは、オンライン授業の新たな教育的効果の一つ捉え、今後の研究として行かしていく方向である。</p> <p>さらに、オンライン授業および iPad を活用したハイブリッド型授業の教育研究に関しては、地域のニーズに応じたタイムリーな授業力向上セミナーを数多く企画、周知し、来校型の他、リモート開催、講師として派遣型など、道東地区の教員研修支援センターとして、広く地域の教育実践に貢献することができたと考える。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>小中一貫教育(9年間)の中で、各教科等の目標や活動内容に応じ、学習課題や自身の考え、その根拠等を、他者と共有することで「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、リーダーシップ・フォロワーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力を育むためには、一層の視覚的</p>

	<p>情報の教材化，ICT 機器の環境整備を進める必要がある。</p> <p>加えて，学習指導要領においては，「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け，教科等横断的にその育成を図るとともに，その育成のために必要な ICT 環境を整え，それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしている。この点からも，学校における ICT 環境整備が喫緊の課題といえる。</p> <p>また，本事業による「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」については，ホームページ上で実践事例として随時，積極的に情報提供するとともに，授業力向上セミナーや授業実践交流事業等を通して，提案していく予定である。</p>
<p>事業の公表状況  (事業をHPで公開した場合，又は新聞等に掲載された場合，当該媒体名，掲載日等を記入)</p>	<p>①附属釧路中学校 HP  <a href="https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/seminer3.html">https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/seminer3.html</a>  <a href="https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/seminar55.html">https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/seminar55.html</a></p> <p>②附属釧路小学校 HP  <a href="https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_syo/">https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_syo/</a></p> <p>* 「研究活動」の実践事例，日常の学習活動の様子として紹介</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は，この事業報告書に添付すること。